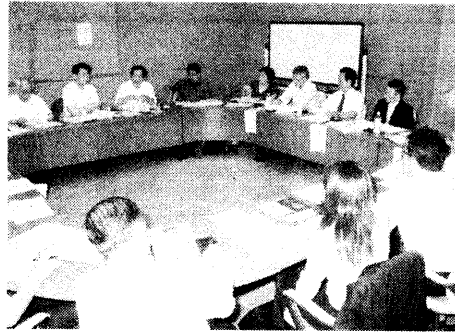


# チーム間の連携図る

## 水の安全保障戦略機構 水道・下水道系で会合

水の安全保障戦略機構は「チーム水・日本」の行動チームの会合を相次いで開いた。8日には「衛生・資源循環」分野の、13日には「水供給」分野のチームが集まった。



13日の「水供給」分野のチーム会合

現在、「チーム水・日本」には、約20の行動チームが登録されているが、うち下水道などの衛生・資源循環に関連した分野と水道など水供給に関連した分野のチームに分けて、それぞれ事務局からの話題提供を基に自由な意見交換を行った。チーム同士の接点、共通事項を模索して連携に結びつけようというもの。「衛生・資源循環」の冒頭、同機構の事務局である日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長が挨拶。「水に関する国際貢献の議論は盛り上がりを見せているが、このまま手をこまねていると、2、3年経つと行動チーム側もモチベーションが下がるかも知れない。そうなる前に活動の効率面、活動フィールドの確保といった課題に対し、当機構が補完的な役割を担い、行政へ働きかけができるようなことについて、ほとんど意見を出して欲しい」と要望した。会合では、事務局から衛生をめぐる国際的な動向などについて話題が提供された後、災害発生後の衛生確保

のあり方、海外アタッシェへのチーム活動アピールの必要性などについて意見が交わされた。「水供給」の会合では、古村和就同機構技術普及委員長が「チームが多くなる」と、それぞれ自己主張するようになり、チーム間で連携をとり、話し合いをして（政府など）上にあげていくことが必要」と会合趣旨を述べた。事務局がOECDの持続可能な開発目標（SDGs）に関する調査や水質調査と水の価格付け、政府による政策、民間部門、市民社会の役割などを説明した。

各チームが課題や行動の指針を示し、連携が可能な他のチームを挙げた。特に国内での災害時の水供給確保と海外での水ビジネス展開に関連したチームが役割分担の考え方や連携の可能性を話し合った。大都市では水道と下水道が災害時対応で連携がとれていないとの指摘も出て、「衛生・資源循環」分野のチームとの連携の必要も確認した。今後、会合での議論を同機構技術普及委員会と連携し、政府側の関係省庁連絡会内に設置予定の部会に上げていく。会合に出席したチームは次の通り。

「おいしい水大使館（同）」「水供給」▽アジア・パシフィック水道技術情報センター▽生命の水道・ニッポン▽海外水循環システム協議会▽災害時中小規模「水」供給▽小集落対応

型・移動型水循環システム整備▽チーム水道産業・日本▽ポリシリカ鉄による水・資源循環システム推進▽リン資源リサイクル推進▽汚水（生活排水）処理シ

沼、ダム、物質循環（同）

型・移動型水循環システム整備▽チーム水道産業・日本▽ポリシリカ鉄による水・資源循環システム推進▽水の安全性向上プログラム（未登録）